



風は海から

令和3年9月30日
令和3年度
横浜市立西岡小学校
学校だより 10月号 No.6

ピンチをチャンスに

副校長 山田 正治

9月30日をもって、8月2日から本県に発令されていた新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言がようやく終了します。社会全体に大きな影響を与えた今回の宣言でしたが、ご存じのように学校も多大な影響を受けました。夏休み明けすぐの「臨時休業」、9月からの「分散登校」「短縮授業」、タブレット端末を持ち帰っての家庭学習、学習スタイルの制限（座席の配置、音楽、体育などの学習内容）、休み時間の過ごし方など今までの通常の教育活動とは異なる形が求められました。

予想していたことではありますが、これらの急な変更にも子どもたちも教職員も少なからず戸惑いを覚えながら学校生活を進めていました。クラスの約半数しか顔を合わせられない教室、外遊びができない休み時間、慣れないタブレット操作、増えた家庭時間の過ごし方、授業の進捗具合など不安要素がいくつもありました。これは、学校としてのいわゆる「ピンチ」でした。この状態はもちろん望んだものではなく、外的要因によってやらねばならなくなった物事の結果でした。

決して望んだことではないこの「ピンチ」ですが、このピンチの状況の中で大きな「チャンス」もいくつか明らかになってきました。まず一つ目は、分散登校による授業の少人数化です。授業を少人数で行うことによって、子どもたち一人ひとりへ教師の目が行き届きやすくなりました。また、子ども一人あたりの発表の機会が増え、今まで発表に消極的だった子が積極的になってきた例も見られました。

二つ目は、学習のICT化の促進です。今まで行っていなかった家庭でのタブレット利用やオンラインでの学校との接続（「朝の会」や「帰りの会」で試行）が実現しました。学校でのタブレット利用の場面も飛躍的に増えてきています。また、私たち教職員のICTに関する知識や技能も向上しました。今後も研修等により自己研鑽に励んでいきたいと思えます。

三つ目は、学習ではありませんが、ご家庭からの健康観察報告の電子化が進みました。急な変更でご心配やご迷惑をおかけした点がありますが、ほとんどのご家庭から電子での報告がなされています。ご協力に感謝いたします。

未だにコロナ禍の中ですが、「ピンチ」を「チャンス」として、うまく今後の教育活動に生かせる事例は今後もあるのではないかと考えます。起こってしまった負の事象を嘆くことに留まらずに、そこから何ができるか、いかにできるかを考えたり、その事象をうまく利用したりするプラス思考で臨んでいく姿勢が求められていると思えます。これはコロナ禍に限ったことではなく、様々な場面に当てはまると思えます。今後も思いもよらぬ「ピンチ」が訪れるかもしれませんが、その際は「ピンチ」を適切にしのぎながら、そこから「チャンス」を作り出していかれたらと考えています。